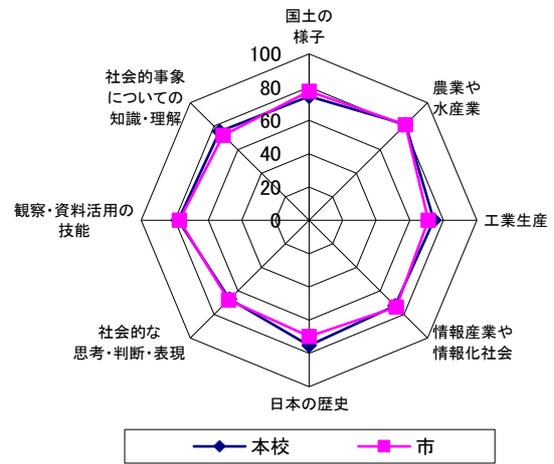


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	74.5	77.5	74.0
	農業や水産業	81.4	81.1	73.7
	工業生産	74.4	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	72.5	73.7	63.2
	日本の歴史	75.2	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.9	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	78.0	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	75.4	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は74.5%で、市の正答率を3.0ポイント下回った。 ●日本の周辺の海洋名を選択する問いに対し、校内正答率は72.5%で、市の正答率を7.6ポイント下回った。 ●「間伐」についての説明を選択する問いに対し、校内正答率は72.5%で、市の正答率を10.4ポイント下回った。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>世界の中の、日本の国土の位置や領土の範囲、世界の大陸、海洋名については、地図帳を活用させて知識の定着を図っていききたい。 社会的な事象に関する言語について、授業を行う際に意味とともに丁寧に確認し、理解できるようにしていきたい。</p>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は81.4%で、市の正答率を0.3ポイント上回った。 ●日本の食料自給率について資料を読み取る問いに対し、校内正答率は85.0%で、市の正答率を3.9ポイント下回った。 ○米の生産がさかんな地域について資料を読み取る問いに対し、校内正答率は98.8%で、市の正答率を4.9ポイント上回った。 	<p>資料の読み取り問題の中でも、地図やグラフなど資料の種類によって正答率に差があるため、算数など他教科との関連も図りながら、資料活用の技能を定着させていきたい。 農業や水産業については、授業を行う際に地図帳などを用いて、地域の気候や地理的特徴とともに理解できるようにしていきたい。</p>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は74.4%で、市の正答率を3.3ポイント上回った。 ○化学工業の製品を選択する問いに対し、校内正答率は75.0%で、市の正答率を7.1ポイント上回った。 ●工業地帯・工業地域の立地について資料を読み取る問いに対し、校内正答率は73.8%で、市の正答率を0.4ポイント下回った。 	<p>工業製品は様々な種類があるため、授業を行う際にその違いを丁寧に確認し、理解できるようにしていきたい。 工業地帯、工業地域について、地域ごとの特色とともに理解できるように確認していき、プリント等の練習問題で理解を深めていく必要がある。</p>
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は72.5%で、市の正答率を1.2ポイント下回った。 ●医療における情報ネットワークの利便性について資料を読み取る問いに対し、校内正答率は73.8%で、市の正答率を2.3ポイント下回った。 	<p>情報産業や情報化社会と国民生活との関わりについて、身近なメディアを取り上げるなどして、再度確認し、理解を深めていく必要がある。 インターネットを活用した情報ネットワークが、様々な現場で用いられていることを具体例とともに取り上げて、理解を深めていきたい。</p>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は75.2%で、市の正答率を5.5ポイント上回った。 ●大和朝廷による国土の統一の様子について、資料をもとにして説明する問いに対し、校内正答率は20.0%で、市の正答率を6.9ポイント下回った。 ○元の攻撃を退けた人物として、北条時宗を選択する問いに対し、校内正答率は86.3%で、市の正答率を20.1ポイント上回っている。 	<p>知識、理解の部分では、正答率が高い問いが多数見られたが、文章で表現する問いには課題が見られたため、地図やグラフなどの資料と関連付けて覚えたり、歴史的な事象について自分で文章にまとめたりする活動を取り入れていく必要がある。</p>